

# テリトリー

桂川正之

## プロローグ

---

当たり前の日常  
過ぎ去っていく時間  
求めるものの行方

未来を欲して  
乾いている喉を潤すように  
飲み込んだ過去

でも、おなか一杯になれず  
今日もおなかが鳴りやまない  
空腹を訴え  
彷徨う

ここはどこだと  
ここはここだと  
納得することのできるのは  
きっと、きっと、  
寝てしまえるその瞬間だけ・・・

今日の出来事を記録にとどめ  
昨日よりも  
おなかを満たしてくれると  
明日の私に言っておいた

# 目次

---

プロローグ	1
目次	2
わんぱくっ子	3
恋撃戦線	4
テリトリー	5
片付けベタ	6
テリトリー2	7
生きる	8
テリトリー3	9
身体君	10
テリトリー4	11
Delete	12
テリトリー5	13
私を追って	14
あとがき	15
エピローグ	16
奥付	17

## わんぱくっ子

---

はるか遠くを見すえている

異国の地を知りたがり

子供の目を輝かせ

夢を馳せた

冒険者となって、

知らないことを

知りたがる

そうになったらきっと手がつけられない

大人を困らせるものじゃありませんとか言われるが

そんな物知ったこっちゃない

子供のわがままに勝てるものか

絶対、

いつしかそれは野望になっていたり

いつしかそれは希望になっていたりして

なんでもかんでもできるような気がしてくる

わんぱくさんなんだ！

## 恋撃戦線

---

撃たれることを覚悟しなければならない

世界中はなんだか変なゲームに巻き込まれ

男女のゲームが始まったのだ

撃たれ、撃ち合い、みだれ撃ちや、一発必中

さまざまなスタイルがあり

我々はそんな銃撃戦の中

恋をしたり、愛したりしている

たまには盾で身を守り

これをはがすのに苦労を重ね

隙間を見つけて撃ち込まなければならない

好きだという思いを届けるために・・・

## テリトリー

---

縄張りとか入ったら吠えられた  
よくあることだ

仲良くしたいのに  
中々うまくはいかない  
名前すらわからないで・・・

とぼとぼと野良は行く

優しそうな人に飯をもらい  
いつもの場所でのんびり昼寝をして  
日向ぼっこ

だけど、吠える犬が近くに現れ威嚇する

ゝグルル！グルル！ゝ

昼寝の迷惑だ  
こんないい日にケンカなんてやってられない

無視された方はたまったものではないだろうが・・・

## 片付けベタ

---

一つ拾っても中々に減らない  
部屋を片付けても  
中々に片付かない

ゴミと、そうじゃないものの区別がつかなく

あとになっているのはガラで・・・

ゝは一、と、  
ため息をついて  
ゴミ袋を漁っても

ないないないと、どこにやったと  
探すけれど、  
ないないないと言って  
めんどくさいと投げ出すのだ

我ながら片付けはへたと  
また、ため息をついた

## テリトリー 2

---

荒らしがいやがる  
大将を気取って  
ここにいるんだ

吠えれば逃げていく  
勝ったという気になって  
天狗になった

だけど奴は  
俺のテリトリーで寝てやがった

吠えてやったが  
寝ぼけていやがって  
二度寝なんて  
味なマネしやがった

だから・・・噛みついてやったんだ



## 生きる

---

抱え込んで生き続けるのは  
辛く、重く

いつの間にか暗い顔になり  
心から蝕み

体内に現れる

奴の存在は厄介で  
強い、

弱い人間ならば  
食われてしまう

だから、強く、強くあらねばならない  
心を、心が、豊かでなければならない

そのことが、本当に生きているってことだと思うから・・・

戦争だ！、

今までのことは、今までのこと

それはいい

だが、噛みつかれては

戦争だ！、

これは犬のプライドをかけた戦い

一对一の死闘

勝たなければならない

なぜなら昼寝を邪魔されたから

理由ならそれで十分だ！、

## 身体君

---

作るのはとてもめんどくさい

食べるのは好き

でも、それほど食べるわけではない

できれば、味わって食べたいけど

時間に追われ

手っ取り早く、

栄養食材で我慢、我慢

なんてことはざらで

「現代人は忙しいのです、

なんて言い訳を身体君にした

わかってますよ、

おいしいものが食いたいんですよね！

半額の弁当で、

とりあえず我慢、我慢してと

訴えてみたけど

今度は心君が

おいしいものを食いたい、食いたいと

だだをこね始めた

なんてわがままな！

SUSHIなんていう

なんてぜいたくな！

焼肉なんていう

お財布君を見て

ため息をつき

ごめんなさいと誤って

半額の弁当を買うのだ

せめておいしいハンバーグ弁当を

私は食べるのだ

## テリトリー 4

---

奴は意外に強かった

何度も、何度も

挑みかかって来やがる

最初、油断があって

しっぽを噛みつかれた

俺の大事なしっぽになにしゃがると、

逆上し、向かっていった

取っ組み合いが始まり

お互いがボロボロになるまで

この闘いは続いていく

まえ足を噛みつけば

向こうも前足に噛みつく

タックルしたら

頭突きしてきやがった

「速く、倒れやがれ、

どうやら向こうも同じこと思っているらしい

これが最後の一撃と、飛び込んで行った

## Delete

---

なんていい響きなんでしょ  
だけど全部消すわけにはいかない

とりあえず嫌な記憶だけを  
消去できたら  
この世界はどんなに暮らしやすくなるだろう

だけど、悲しみや、苦しみとか  
そういうものを知らなければ  
きっと、人は同じあやまちを  
何度も、何度も繰り返すに違いない

振られた記憶を  
Delete、Delete、  
彼女の名前を消すのは  
中々に難しそうで、難しそうだ

そうして、なんども、なんども、  
同じ感じに振られ  
その度にDeleteして  
Deleteするだろう・・・

そんなおり

ちんにゆうしゃが現れた

Big Dogだ

とにかくなんだかわからないが

こいつはヤバイ、と二人は思い

その瞬間二匹とも、ぶっ飛ばされた

ボロボロな身体はこの一撃によって

深い、深い、闇へと向かい・・・

気がつけば、星が溢れていて

二匹は、夜空に吠えあつたという

私を追って・・・

---

行方不明の私を追って

その先にある

夢を見続ける

そこに私がいるような気がしてならなく

飛び込んでいく

その先へ

ずっと、ずっと未来へ

そんな駆けっこをしている

まだまだ子供だな、と思い

それもまたいいのかなとか思って

わたしは私になるための一歩、一歩を刻んで

笑われてる、

だけど、笑ってくれる奴がいるのなら

わたしは、まだ子供でいられるんだ！

それって、まだまだ伸びるってことじゃないのかな？

それって、私になるための必要な道が

わくわくして、楽しみになってくるんじゃないのかな？

そんな気がするんだ！

そんな気がして、中々寝れないんだ！

## あとがき

---

どうも、はじめまして桂川 正之です。  
今回テリトリーを書き上げることができました。  
短くまとめ、あまり長くせず書くことにしました。  
一応テリトリーということで、1～5と続きで書きましたが、  
間に別のものを挟ませてもらいました。  
こどもの悪戯（いたずら）みたいに思ってくれば幸いです。  
一応どうなるのかみてみたいなーとおもって書かせてもらいました。  
長編物語詩的な感じになり、一つ挟み入れることで、  
どのようになるのかと試してみたかったです。  
それにより、ちょい短く感じながら、  
長いものをよんだなーと感じてほしいです。

また、手に取ってもらった方、読んでもらえた方、  
本当にありがとうございました。  
もしよかったら、またよろしくお願いします。

桂川 正之



## エピローグ

---

二人はケンカをすることはなくなり

ただの過ぎ去るものではなく

より強く、強く

あろうとしだし

お互いに、お互いを認め合い

未来を歩み出した

後に帝王の右腕となり、左腕となって

側にいることになり、君臨するのだが、

それはまた別の話し・・・

## テリトリー

<http://p.booklog.jp/book/57366>

著者：桂川正之

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kiojibun5489/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/57366>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/57366>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ